

## 「いたばし子ども未来応援宣言 2025」の進捗状況について

### 1 計画概要・趣旨

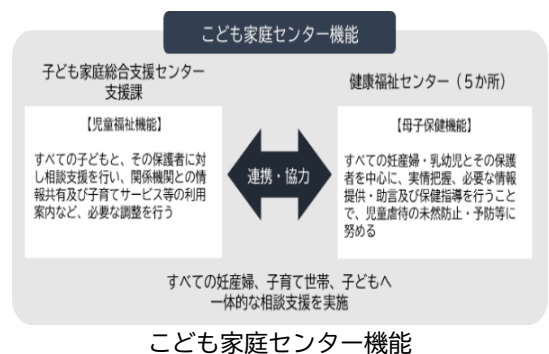
- 「いたばし子ども未来応援宣言 2025」（以下、応援宣言）は、板橋区基本構想・基本計画 2025 の子育て分野における個別計画の基本計画であり、平成 28（2016）年度から令和 7（2025）年度までを計画期間としています。
- 現在は、応援宣言の短期的なアクションプログラムとして、令和 4（2022）年度から令和 7（2025）年度までを計画期間とする「実施計画 2025」（以下、実施計画）を推進しているところです。
- 今般、令和 6 年度の実績について報告するとともに、今年度をもって計画期間が終了することから、これまでの進捗状況を総括します。

### 2 令和 6（2024）年度の主な成果

実施計画では、5つの基本目標を施策体系の柱としつつ、重点的に取り組むべき「3つの重点宣言」を掲げ推進しています。以下、「3つの重点宣言」に沿って、主な成果を報告します。

#### （1）重点宣言Ⅰ「切れ目なく子育て家庭を支え、その暮らしを豊かにします」

- 産後ケア事業では、申請方法の見直しや通所型の導入によって、登録件数が昨年度比で2倍以上になりました。訪問型・宿泊型の利用人数も増加し、通所型についても実人数で 309 人の利用があり、事業全体で利用人数が大幅に増加しました。
- 産前から利用できる「産前産後支援事業（専門的な資格を持つ産後ドゥーラの派遣）」を開始し、470 件の利用があったほか、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもへ母子保健と児童福祉の支援を一体的に提供する「こども家庭センター」機能を導入し、支援が必要な家庭の早期発見と関係機関の連携につなげました。



#### （2）重点宣言Ⅱ「すべての子どもが取り残されず、夢と希望をもって成長します」

- ヤングケアラーについて関係機関から相談を受け、助言やコーディネートを行うアドバイザーを設置したほか、子どもたちに向けた啓発動画・チラシを作成・公開しました。
- 全区立小学校区に 1 か所以上の設置支援をめざしている子ども食堂の数は全 67 か所へ増えたほか、児童養護施設や里親家庭等で育った社会的養護経験者（ケアリーパー）への居場所提供・相談支援の拡充、医療的ケア児を受け入れる区立保育園を 2 園から 5 園へ拡大するなど、SDGs の視点を踏まえた、インクルーシブな支援を推進しました。



ヤングケアラー啓発動画サムネイル

(3) 重点宣言Ⅲ「魅力と交流の創出で若者の社会的自立と活躍を応援します」

○子どもの意見を尊重しながら区政を推進していく仕組みの一つとして、8月に、「いたばし子どもワークショップ」を試行開催しました。小学4年生から高校3年生まで、公募定員を上回る35名が参加し、子どもならではの視点からたくさんの意見やアイデアをまとめ、区長と意見交換も実施しました。令和7年度には、3回に拡大して本格的に実施し、区政への反映に努めていきます。



いたばし子どもワークショップ

○区立中学校部活動の将来的な地域移行に向けて、「いたばし地域クラブ」の4クラブ目として、「サイエンスクラブ」を新設しました。令和7年度には、野球部を地域移行するなど、引き続き、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動などを通じて成長できる多様な学びを推進していきます。

3 実施計画事業の達成状況

計画事業（重点的に取り組む48事業。参考資料1参照）の達成状況は、「達成」及び「順調」（※）の割合が約93.8%（「変更」を除いた割合は100%）であり、概ね計画どおり進捗しています。

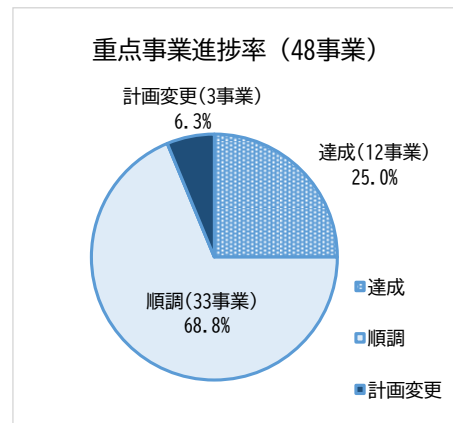
■目標事業量の達成状況

施策体系	事業数	達成	順調	停滞	変更
目標Ⅰ 安心して妊娠・出産、子育てできるまち	10	0 0.0%	9 90.0%	0 0.0%	1 10.0%
目標Ⅱ 子どもの健康と安全が守られるまち	9	4 44.4%	4 44.4%	0 0.0%	1 11.1%
目標Ⅲ すべての子どもが健やかに育つまち	11	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%
目標Ⅳ 豊かな人間性と生きる力を育成するまち	9	2 22.2%	7 77.8%	0 0.0%	0 0.0%
目標Ⅴ 子育てでみんなが協力するまち	9	1 11.1%	7 77.8%	0 0.0%	1 11.1%
計	48	12 25.0%	33 68.8%	0 0.0%	3 6.3%

※小数第二位四捨五入

■進捗状況の標語

評語	説明
達成	令和7年度未までの目標事業量を達成している
順調	令和7年度末の目標事業量に向けて順調に進捗している
停滞	令和7年度末の目標事業量に向けて進捗が停滞している
変更	事業に計画変更が生じ、目標事業量を変更する必要が生じている



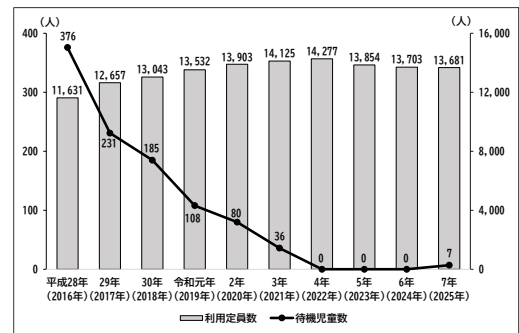
※四捨五入により100%とならない

## 4 応援宣言の総括

### (1) 主要成果

#### ①待機児童ゼロの実現

計画を策定した平成 27 年度当時は、保育園や学童クラブの待機児童が多く、社会問題となっていました。板橋区では、全区立小学校に「あいキッズ」を導入し、学童待機児ゼロを早期に実現したほか、保育園においても、令和 4（2022）年度に待機児ゼロを達成しました。保育園については、令和 7（2025）年度に再び待機児が 7 名発生しましたが、欠員も多く発生しており、新たな課題が生じています。



待機児童数及び利用定員の推移

#### ②児童相談所設置市への移行実現

旧板橋第三小学校跡地の一部を活用し、令和 4（2022）年 4 月に、子ども家庭総合支援センターを開設、同年 7 月には児童相談所設置市として指定されました。支援が必要な子どもと家庭の早期発見と虐待等の予防から、一時保護・措置・援助まで一貫して対応できる総合拠点として機能しています。



子ども家庭総合支援センター

#### ③切れ目のない子育て・経済的支援の充実

妊娠時・出産後に面接や訪問を実施し、必要な支援につなげたほか、産前産後支援、産後ケア、育児支援ヘルパー事業などの充実を図りました。経済的支援では、出産応援ギフト、子育て応援ギフト、バースデーサポート事業を開始したほか、児童手当・子ども医療費助成の拡大、保育料・学校給食費の無償化などを実現しました。



育児パッケージ（妊婦・出産ナビゲーション事業）

#### ④SDG s 未来都市「絵本のまち」の推進

児童館を乳幼児親子に特化したCAP' Sへ再編したほか、SDG s を体現する施設として板橋こども動物園を再整備、緑に囲まれた平和公園内に中央図書館を移転しポローニャ絵本館を併設、中高生の居場所として i-youth を開設するなど、絵本のまちとして未来を担う子どもたちに魅力的で誰もがわかりやすい環境の充実を図りました。



中央図書館 児童コーナー

#### ⑤配慮が必要な子どもへの支援の充実

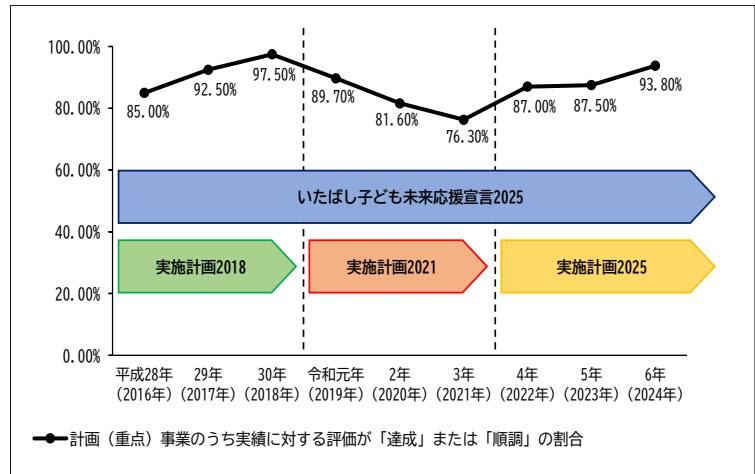
児童発達支援センターを新たに 2 か所開設したほか、医療的ケア児を受け入れる区立保育園を 5 か所へ拡大しました。このほか、子ども食堂の事業運営や設備の整備費等を支援し、街かどフードパントリーを設置したほか、まなびのひろば「けやきば」、ヤングケアラー支援、ケアリーバー支援への取組を開始しました。



街かどフードパントリー（食品・相談支援事業）

## (2) 実施計画の達成状況

計画事業のうち実績に対する評価が「達成」または「順調」の割合は、コロナ禍の影響を強く受けた令和2（2020・令和3（2021）年度に80%前後に下がったものの、平成28（2016）年度から令和6（2024）年度までの平均は87%を上回っており、3年に1度、計画を見直しながら、着実に推進することができました。



いたばし子ども未来応援宣言 2025 の計画期間及び評価

## (3) 計画指標の達成状況（詳細は参考資料2参照）

基本目標	指標数 進捗率	主な指標	策定時	目標	現況
I 安心して妊娠・出産、子育てできるまち	4 75.0%	保育園の待機児童数	378人	0人	7人
II 子どもの健康と安全が守られるまち	4 100%	乳幼児健康診査受診率	91.3%	100%	91.6%
III すべての子どもが健やかに育つまち	4 100%	虐待通告受理後の対応における終結率	40.8%	↑	67.2%
IV 豊かな人間性と生きる力を育成するまち	5 40.0%	不登校の出現率	小 0.42% 中 3.29%	↓ ↓	集計中 集計中
V 子育てでみんなが協力するまち	4 25.0%	児童館1館当たり乳幼児・保護者年間延利用数	12,913人	26,000人	17,442人

全体では、「達成」または「順調」の割合が66.7%であり、概ね順調に成果を上げています。

## (4) アンケートによる指標の状況（詳細は参考資料2参照）

項目	策定時	目標	現況
子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者の割合	26.60%	↓	37.90%
子育てについて、気軽に相談できる人がいる保護者の割合	85.90%	↑	81.40%
仕事と生活の調和の実現が図られていると感じる保護者の割合	24.30%	↑	27.02%
希望した時期に子育て支援サービスを利用することができたと感じる保護者の割合	41.30%	↑	40.20%
子どもを虐待しているのではないかと思う保護者の割合	16.70%	↓	19.85%

## (5) 今後の課題・方向性

コロナ禍を契機に出生数が大幅に減少し、子育て世代の人口減少及び転出超過の傾向が継続しています。次期計画では、さらに魅力的な子育て・若者施策の推進・充実とともに、他の政策分野と連携するなど、施策・組織横断的な取組を進めていく必要があります。